

「おいしい水を 蛇口から」

講師

米子市水道局長

田中 通雄 さん

私 自身、水道局ですから日野川とは切れない縁で仕事させて頂いております。

「日野川の源流と流域を守る会」を立ち上げる以前に、「日野川の源流を旅する会」というイベントに参加させて頂き、「日野川の源は山林だ」と強く思いました。

米子市水道局は、現在、旧淀江町、日吉津村、境港市も給水区域としています。名前は米子市でありながら2市1村に給水している事業は全国的にも希有です。

近い水は安くて、遠い水は高い、配管等のランニングコスト等の問題、原水が汚れていれば高度な浄水処理設備で料金にはね返ってきます。

さて、近年市内の児童が水筒やペットボトルを持って通学しています。信頼されているはずの水道が親御さんから見たらその程度かと、蛇口から飲める水道を取り戻そうと、最近よく見られる「今、水道が危い」という記事が週刊誌やコマーシャルに載ります。その下には必ず浄水器メーカーがもたっています。しかし水道水質チェックは多項目にわたって規制が強化され、それをクリアしているのです。

日野川の話でございますが、日南町の三国山を源流として延々77キロ、上水道や、簡易水道、自家水道、農業用水、工業用水、ひいては魚の泳ぐ水、それから海へ出て参りますが、日野川を大切にするのは、まず源流域における森林だということを文頭に申しました。



鳥 取県の森林を守るため県民税上乘せ方式があります。コーヒー1杯程度の税金を負担しながら山に返していこうというものです。鳥取大学の教授がある機関誌で落ち葉が腐葉土になり、フルボ酸鉄が海に流れだすと海の魚にいい影響を、川だけでなく海にも与えると言っておられます。

昨年春にエコアジア会議が米子を中心に開かれました。

私共にも参加しないかと話があり、苦心の末、米子の水をペットボトルに詰めて出してみようじゃないか、ということで提供いたしました。

アジア諸国の皆さんに「エビアンよりもいいぞ」と褒めていただき、今年度は全国水道研究発表会を水道局が誘致しました。ペットボトルに詰めた水を売ろうということではなく、水道の原水は蛇口から飲める水なのだということです。ただ煮沸しただけですので蒸留水と違い2年間の賞味期限ですけどね。もう一つは日野川の恩恵を受けた米子の水のPRにつなげようと「～届けてみませんかふるさと“よなごの水”を～」をネーミングにしてみました。

日野川は大半が水質環境基準AAもしくはA、いわゆる最上級の水質を保持しています。AAというのははる過等の簡単浄水処理で上水道にしても構わない良質な水だということです。

平成16年11月から家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律が施行されました。河川や流域に推肥等野積みはダメですよということなんです。農家の人も大変でしょうが、是非きれいな日野川であってほしいと理解していただきたいものです。

日野川の源流と流域を守る会ができ、啓発され、母なる川、日野川は大切であると、もう一致した皆さんの意見や見解になってきました。三国山からスタートして、日吉津村までたどり着く77キロの関係自治体の皆さんが緩やかでもいい、日野川流域保護条例のような、要はきれいにしよう、汚すまい、守ろうといった条例化が出来たら皆さんの考え方が進んでくるのではないかなと思っています。

流域のすべての皆さんが日野川の水を減さない、いやかえってふやす、水質もよくする取り組みで、すばらしいふるさと、すばらしい鳥取県西部地区が出来るだろう、何よりも日野川は私どもの命です。役所がどうかではなしに、大切に皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っております。